

命と心を大切に、安心・安全な暮らしと働く場の実現に向けて、
共ががんばりましょう！

岡山研修大会に参加された全国の皆さん。各事業所においては、本大会で討議された「利用者支援、高齢化、人材の育成」などの今日的な課題、難問を抱え、日々奮闘されていることと思います。本大会で深く討議された成果が、必ずや明日からの実践に生かされることを期待するものです。

この研修大会は一九九九年、全日本手をつなぐ育成会小規模作業所連絡会の大会として始まりました。当時のテーマは「どこに住み、どこで働き、誰が支えるか」でした。障害者総合支援法の時代となりましたが、このテーマはまだまだ生きています。どこでだれが支えていくのか、特に障害当事者と家族の急激な高齢化が緊急の課題として立ちあがっています。かつての継ぎ接ぎな障害福祉の制度や法律は大きく改革されましたが、果たして障害当事者、本人にとつて本当に良くなっているのか、私たち事業者はこのことに関心と責任を持ち続けなければいけないと考えます。障害当事者を主役にした使いやすい制度が必要です。

そんな折、神奈川県相模原市の「津久井やまゆり園」で生活をされていた障害者が殺傷されるという未曾有の事件が起きました。障害のある人に対して、「障害」を理由にしたこれまでに無い最大かつ最悪の差別事件です。

事件の犯人はやまゆり園の元職員であったこと、重度の障害者が生きていくのは不幸だと断じ、不幸を減らすためにやつたと供述していること、障害者に対して強い偏見を抱き、標的にした計画的な殺人行為であること。今年には障害者虐待防止法につづき、「障害者差別解消法」が全面的に施行になった年でもあります。今回の行為はいかなる言葉で釈明しようとも断じて許すことの出来ない蛮行であり、強い憤りをもって糾弾するものです。

私たち全国手をつなぐ育成会連合会事業所協議会に結集する事業所、職員は、今回の事件から様々な気づきと学びがなくてはならないと考えます。

久保厚子全国連合会会長が発せられた「呼びかけ」を今一度深く理解してください。職員自身の言葉で一人一人の利用者さんへの「呼びかけ」運動を展開してください。事業所を利用して障害者一人一人と語り合い、その思いや願いを大切にしつつ、安心な社会、安全な生活をつくるために共に頑張ろうという強い意思を、利用者の皆さんに伝えることが求められていると考えます。

連日のマスコミ報道に接する度に、犯人に対する義憤の念が募る一方で、また別の不安も増幅しています。総合支援法の下、障害福祉事業は統一・標準化されてきました。そして、事業所の多くの現場では成果主義が静かに浸透し、障害福祉事業の産業化が進行していないか、また温かみやゆとりのある「福祉」という雰囲気希薄になり、空洞化してきていないか、との懸念を抱かせています。

今回の事件を契機にして、私達一人一人がそれぞれの事業所の現在の在りよう、職員一人一人の在りようを見つめ直す機会にしましょう。

そして『命と心を大切に、安心・安全な暮らしと働く場の実現』に向けて共にがんばることを確認します。併せて、このことを事業所協議会全国研修大会岡山大会に参集した者の総意として、全国の仲間にも呼びかけます。

平成二八年九月四日

全国手をつなぐ育成会連合会事業所協議会

全国研修大会岡山大会参加者一同